

平成 31 年度 静岡県公立高等学校入学者選抜

# 学 力 検 査 結 果 等 の 報 告 書

I	学力検査結果等の概況	・・・・・・・・・・	1
II	各教科及び作文の概況		
	国	語	・・・・・・・・・・ 5
	数	学	・・・・・・・・・・ 6
	英	語	・・・・・・・・・・ 7
	社	会	・・・・・・・・・・ 8
	理	科	・・・・・・・・・・ 9
	作	文	・・・・・・・・・・ 10

令和元年 6 月

静 岡 県 教 育 委 員 会

# I 学力検査結果等の概況

## 1 学力検査等の実施

一般選抜は、平成 31 年 3 月 5 日（火）及び 3 月 6 日（水）に、全日制の課程では 93 校（分校等も 1 校と数える。）、定時制の課程では 20 校（学年制 17 校、単位制 3 校）で実施した。学力検査は 3 月 5 日（火）に実施し、全日制の課程については、国語・数学・英語・社会・理科の 5 教科について行い、学年制による定時制の課程については、国語・数学・英語・社会・理科の 5 教科及び作文の中から、学校が必要な教科等を選択して行った。単位制による定時制の課程では、国語・数学・英語・社会・理科の 5 教科又は作文により実施した。

なお、一般選抜と同日に実施した特別選抜のうち、海外帰国生徒選抜は 15 校、長期欠席生徒選抜は 3 校、連携型選抜は 3 校において、一般選抜と同様に 5 教科の学力検査を実施した。外国人生徒選抜を実施した 9 校においては、日本語基礎力検査を実施した。

検査当日、病気その他やむを得ない理由によって検査を受けられなかった者に対する追検査は、3 月 11 日（月）に実施した。さらに、再募集を 3 月 22 日（金）に実施し、全日制の課程並びに学年制及び単位制による定時制の課程において、作文又は小論文を学校が選択して行った。

この報告書においては、3 月 5 日（火）に実施した学力検査及び作文について報告する。

## 2 検査教科と検査時間

表 1

教科名		国語	数学	英語	社会	理科
実施時刻	開始	9:05	10:10	11:15	12:55	14:00
	終了	9:55	11:00	12:05	13:45	14:50
検査時間		50分	50分	50分	50分	50分

※ 定時制の課程において作文を実施した学校では、国語と同一の時間に実施した。

## 3 学力検査及び作文問題の出題方針

学力検査問題は、次の方針に基づいて出題した。

5 教科の検査問題は、中学校までの学習内容を踏まえた、基礎的・基本的なものとし、各教科の目標に即して、知識・理解、思考・判断・表現、技能、関心・意欲・態度等を広く検査できるように出題した。

また、作文問題については、受検者の身近な問題を題材として 5 つの作文題を示し、各実施校がこの中から 2～3 題を選んで出題し、受検者はその中から 1 題を選んだ。

4 学力検査及び作文受検者数（追検査受検者を含む。）

表 2

	平成 31 年度	平成 30 年度
全日制の課程	21,559 人	22,231 人
学年制による定時制の課程	307 人	323 人
単位制による定時制の課程	565 人	550 人
合 計	22,431 人	23,104 人

5 学力検査結果の教科別平均点、標準偏差及び得点分布

(1) 各教科の検査結果の平均点（50 点満点）及び標準偏差

表 3

	平成 31 年度		平成 30 年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
国 語	34.40	6.11	30.70	7.83
数 学	26.71	10.47	22.71	9.04
英 語	26.59	9.96	26.39	11.23
社 会	27.76	9.28	24.20	7.96
理 科	26.66	9.35	22.52	8.53
実施校数	93 校		93 校	

※ 分校等を 1 校と数える。全日制の課程のみ。

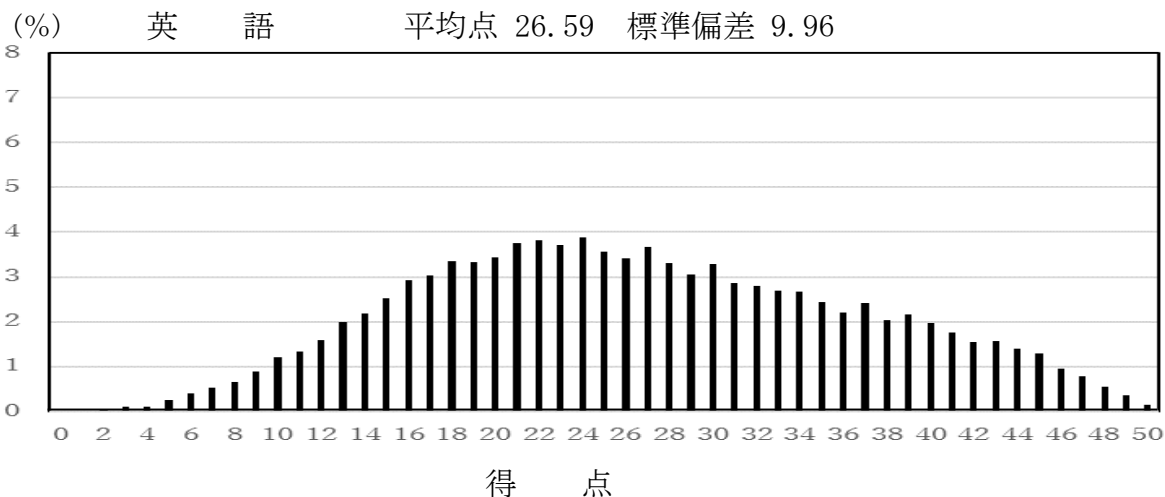
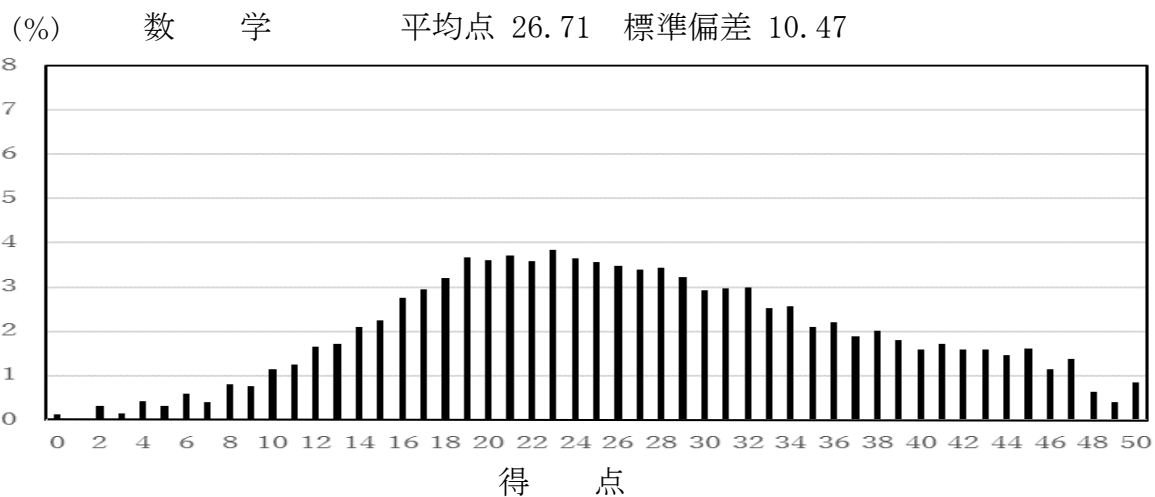
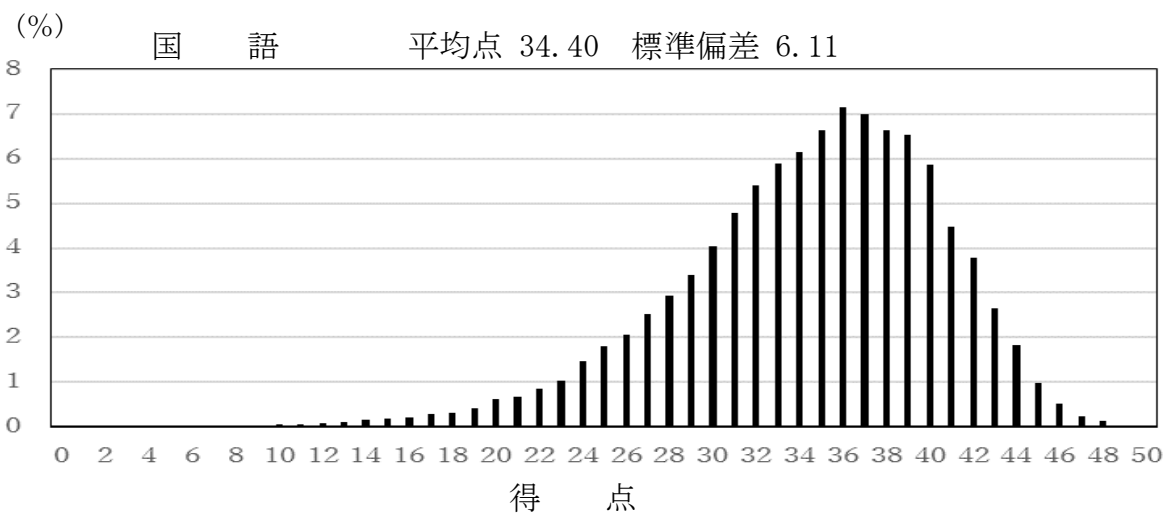
(2) 各教科の得点分布

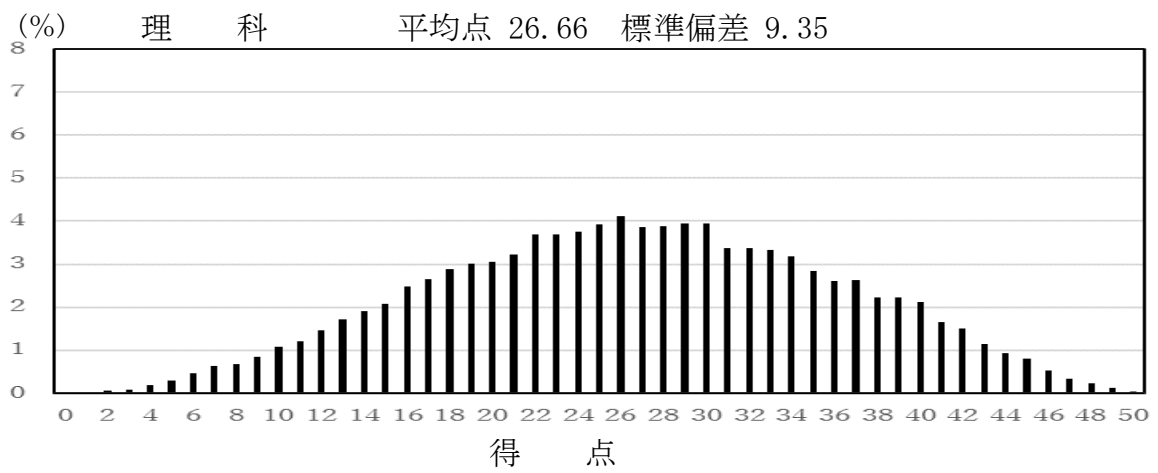
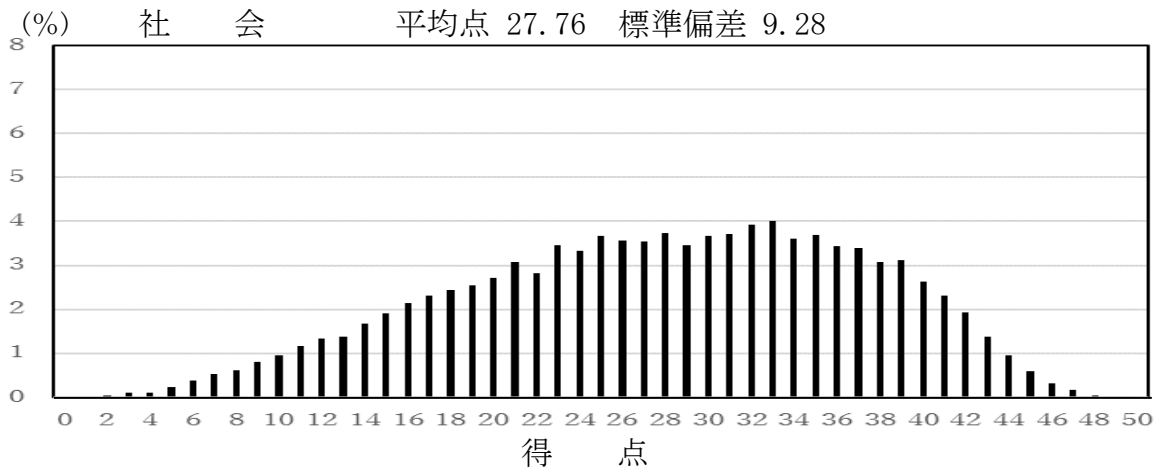
(%) 表 4

得 点	国 語		数 学		英 語		社 会		理 科	
0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1～5	0.0	0.1	1.2	1.1	0.5	0.9	0.5	0.8	0.7	1.2
6～10	0.2	0.7	3.7	4.8	3.7	6.5	3.3	3.8	3.7	6.8
11～15	0.6	3.1	9.0	15.4	9.6	12.5	7.5	10.2	8.4	14.6
16～20	1.9	7.3	16.2	25.5	16.1	15.2	12.1	18.0	14.1	20.0
21～25	5.8	13.8	18.4	19.0	18.7	14.4	16.3	22.4	18.3	20.8
26～30	15.0	20.2	16.5	14.4	16.7	13.2	18.0	21.9	19.7	17.7
31～35	28.9	24.5	13.1	9.4	13.5	12.2	18.9	15.0	16.1	11.6
36～40	33.2	21.1	9.5	6.1	10.8	11.4	15.7	6.7	11.8	5.8
41～45	13.7	8.5	8.0	3.3	7.6	10.0	7.2	1.2	6.0	1.5
46～49	0.9	0.6	3.5	0.9	2.6	3.6	0.5	0.0	1.2	0.1
50	0.0	0.0	0.8	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 右列は平成 30 年度。全日制の課程のみ。

(3) 各教科の得点分布グラフ





## 6 各教科の小問別正答状況

全受検者の中から約 1/50 を抽出し、各教科の小問別正答状況を調査した。その結果は、「Ⅱ 各教科及び作文の概況」において示す。

# 国 語

## 1 出題のねらい

一では話の展開や登場人物の心情を、表現の仕方に注意して読み取ることができるかをみる。二では筆者の考えを文章の展開に即して的確に把握する力をみる。三では社会生活に必要な、言葉によって伝え合う力をみる。四では平易な古文を読んで、話の内容をとらえることができるかをみる。五では自分の考えを文章で適切に表現する力をみる。

## 2 解答の状況

設問番号		解答の特徴と誤答例	正答率
一	問一	㊸ よくできている。	90.2
		㊹ 非常によくできている。	99.3
	問二	よくできている。	94.4
	問三	心配していることとして適切でない解答が多い。	37.8
	問四	非常によくできている。	96.9
	問五	非常によくできている。	96.0
二	問一	㊸ 非常によくできている。	95.8
		㊹ 非常によくできている。	96.7
		㊺ よくできている。	84.9
		㊻ よくできている。	72.2
	問二	誤答では、「イとウ」が多い。	26.7
	問三	よくできている。	73.6
	問四	プラスの内容を的確にとらえることができていない不十分な解答が目立つ。	68.8
	問五	よくできている。	74.0
	問六	文章の展開に即して内容をとらえることができていない不十分な解答が多い。	55.2
	三	問一	よくできている。
問二		よくできている。	94.9
問三		よくできている。	72.0
問四		よくできている。	86.9
問五		二つの体験を通して学んだことを適切な言葉で表現することができていない不十分な解答が多い。	68.0
四	問一	非常によくできている。	95.8
	問二	誤答では、「アとイ」が多い。	54.4
	問三	(1) よくできている。	86.0
		(2) 秀吉の考えを、「大いに怒り」の理由を含めて的確にとらえることができていない不十分な解答が多い。	27.8
五	標語から考えたことを、自分の言葉で述べようとする姿勢がみられる。身近なところにある事柄には触れているが、説得力を持つ文章となっていないものが多い。	50.5	

# 数 学

## 1 出題のねらい

1と2では数と式、図形、関数及び確率に関する基礎的な力を、3と4では身近な事象を数学的にとらえる力を、5と6では空間図形及び関数についての理解の程度を、7では平面図形について論理的に考察する力を、それぞれみることにねらいを置いた。出題に当たっては、数学的活動を通して、事象を数学的にとらえ、表現し、考察処理する過程をみることができるようにした。

## 2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率	
1	(1)	ア	非常によくできている。	97.3
		イ	非常によくできている。	90.9
		ウ	非常によくできている。	91.8
		エ	よくできている。	88.9
	(2)		よくできている。	81.3
	(3)		よくできている。	75.8
2	(1)	線分BCの垂直二等分線は作図できているが、Oの位置を正しく求めることができていないものが目立つ。	55.3	
	(2)	誤答では、 $y = 30x$ が多い。	49.3	
	(3)	よくできている。	73.4	
3	(1)	よくできている。	75.1	
	(2)	誤答では、アが多い。	36.9	
4		数量関係の正しい立式ができていないものが多い。また、どのような数量をxやyで表しているのかを明記していないものも目立つ。	43.8	
5	(1)	よくできている。	82.7	
	(2)	誤答では、 $63\pi$ などがみられる。	40.7	
	(3)	正答率が低い。無答も多い。	7.7	
6	(1)	よくできている。	80.2	
	(2)	y切片を正しく求めることができていないものが多い。	61.4	
	(3)	正答率が低い。問題を解くのに必要な点の座標を正しく求められないための誤答が多い。無答も多い。	18.0	
7	(1)	三角形の相似条件「2組の角がそれぞれ等しい」において、 $\angle DAC = \angle GEC$ は説明されているが、もう1組の対応する角が等しい理由について、論理の飛躍しているものや説明の不十分なものが目立つ。	33.8	
	(2)	正答率が低い。誤答では、40や45などがみられる。	14.9	

# 英 語

## 1 出題のねらい

1では英文を聞いて、具体的な内容や大切な部分をとらえることができるかをみる。2では対話文を読んで、話の流れや要点を的確に把握できるかをみる。3では相手に伝えたい考えや気持ちを、4では相手に伝えるべき事柄を、英語で表現する力をみる。5では物語形式の英文を読んで、話の展開や中心となる事柄を的確に読み取る力をみる。

## 2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率
1	(1)	A 非常によくできている。	94.9
		B 誤答では、アが多い。	50.0
		C よくできている。	88.7
		D よくできている。	80.0
	(2)	1 よくできている。	84.6
		2 誤答では、㊸を <b>sience</b> としたものが目立つ。	40.9
3 話の内容を正確に聞き取れていないための不十分な解答が多い。		19.9	
2	(1)	A 非常によくできている。	94.7
		B 非常によくできている。	92.2
		C よくできている。	80.7
	(2)	㊶ よくできている。	89.6
		㊷ よくできている。	80.2
		㊹ 誤答では、イ、エが多い。	68.2
	(3)	既習の語句や表現形式を用いて解答しているものが多い。	38.4
	(4)	誤答では、エイウアオが多い。	31.8
(5)	話の内容を的確にとらえていないため、適切な部分を抜き出すことができていないものが多い。	13.4	
3	(1)	<b>hear</b> を用いて解答しているものが多い。	42.1
	(2)	会話の流れは踏まえているが、伝えたいことが的確に表現できていない不十分な解答が目立つ。	33.7
4	既習の語句や表現形式を用いて、伝えるべき内容を積極的に書こうとする姿勢がみられる。		54.6
5	(1)	誤答では、イが多い。	70.7
	(2)	㊶ 誤答では、 <b>got</b> が多い。	42.2
		㊷ よくできている。	77.6
	(3)	㊸ 話の内容を的確にとらえていないための誤答が多い。	42.6
		㊹ 質問を正確にとらえていないための誤答が多い。	41.1
	(4)	話の内容を的確にとらえていないための誤答が多い。	27.4
	(5)	誤答では、イ、ウが多い。	38.9
	(6)	誤答では、ウが多い。	50.1
(7)	話の内容を的確にとらえていないための誤答が多い。	27.2	



# 社 会

## 1 出題のねらい

1では日本の歴史における政治や社会の特色、2では自然環境や産業などからみた日本の特色、3では国際社会の動向と特色、4では国民生活と政治・経済とのかかわりについて、それぞれ出題した。出題に当たっては、社会的事象に対する関心と理解の程度をみるとともに、多様な資料に基づいて考察し、表現する力をみるようにした。

## 2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率		
1	(1)	a	誤答では、「大宝律令」が目立つ。	72.9	
		b	非常によくできている。	89.6	
	(2)	誤答では、「浄土真宗」が目立つ。		43.3	
	(3)	a	誤答では、ウが多い。	58.4	
		b	日本と明の外交関係の変化を適切に記述していない不十分な解答が多い。	41.6	
	(4)	よくできている。		87.8	
	(5)	a	誤答では、イが多い。	55.3	
		b	財政を立て直すことができる理由を適切に記述していない解答が多い。	29.2	
	(6)	a	誤答では、「ア→ウ→イ」が多い。	43.6	
		b	誤答では、「民主」が多い。	63.3	
(7)	a	誤答では、ア、イが多い。	53.1		
	b	当時の日本や欧米列強が重視していた外交方針について適切に記述していない解答が多い。	21.1		
(8)	グラフから考えられる理由を適切に記述していない不十分な解答が多い。		54.7		
2	(1)	非常によくできている。		93.3	
	(2)	よくできている。		83.8	
	(3)	a	誤答では、「シラス台地」「フォッサマグナ」が目立つ。		62.4
		b	①	誤答では、「50」「260」が目立つ。	42.7
			②	よくできている。	79.6
	(4)	誤答では、アが多い。		20.4	
	(5)	a	誤答では、「黒潮」が多い。	70.9	
		b	根室市の夏の日照時間が短い理由を適切に記述していない解答が多い。	22.0	
(6)	a	よくできている。	76.4		
	b	グラフから考えられる理由について適切に記述していない解答が多い。	58.1		
3	(1)	a	よくできている。	78.2	
		b	誤答では、ウが多い。	38.9	
	(2)	よくできている。		76.0	
	(3)	a	民族間の対立が続いている理由を適切に記述していない解答が多い。		47.3
		b	①	誤答では、ウが多い。	50.7
			②	名 称	よくできている。
問題点	グラフから分かることについて適切に記述していない解答が多い。		45.6		
4	(1)	a	誤答では、エが多い。	68.9	
		b	最高裁判所が憲法の番人とよばれる理由を適切に記述していない解答が多い。	37.6	
	(2)	a	よくできている。	77.6	
		b	㉔の誤答では、ウ、エが多い。	71.3	
		c	誤答では、イ、エが多い。	56.7	
	(3)	表とグラフを基に、有権者数と投票率の世代間の違いによって生じる若い世代にとっての問題点を適切に記述することができていない不十分な解答が多い。		49.4	

# 理 科

## 1 出題のねらい

1は基礎的・基本的な事項、2は生物と細胞及び自然と人間、3は身のまわりの物質及び化学変化とイオン、4は気象とその変化、5は大地の成り立ちと変化、6は身近な物理現象及び運動とエネルギーに関する問題である。出題に当たっては、観察や実験に重点を置き、自然の事象について、知識や理解の程度及び科学的に考察する力をみるようにした。

## 2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率	
1	(1)	よくできている。	76.4	
	(2)	非常によくできている。	85.4	
	(3)	二酸化炭素が発生したことを適切に記述していない解答が多い。	44.2	
	(4)	誤答では、「2.56」「9.6」「4」などがみられる。	66.0	
2	(1)	① 誤答では、イが多い。	67.6	
		② よくできている。	77.2	
	(2)	① 非常によくできている。	89.3	
		② よくできている。	82.0	
		③	a 光合成のはたらきを正しく理解していないための誤答が目立つ。	67.8
			b 非常によくできている。	85.3
	(3)	① 非常によくできている。	88.4	
		② 誤答では、「Pをイ、Qをウ、Rをア、Sをエ」が目立つ。	58.7	
3	(1)	① 誤答では、ウが多い。	44.0	
		② 誤答では、「57.5」「40」などがみられる。	34.2	
		③ 誤答では、「物質を硝酸カリウム、質量を29.1」などがみられる。	57.6	
		④ 温度による溶解度の差が小さいことを適切に記述していない解答が目立つ。	59.7	
	(2)	① 塩化ナトリウムの化学式を適切に表すことができていない誤答がみられる。	73.6	
		②	㊦㊧ 誤答では、「㊦を＋、㊧を－」が多い。	69.3
			記号 誤答では、ウが多い。	31.9
		4	(1)	誤答では、「天気を晴れ、風向を南東」が目立つ。
(2)	記号の誤答では、イが目立つ。理由では、図から読み取れることを適切に記述していない誤答が目立つ。		69.9	
(3)	閉塞前線ができると温帯低気圧が衰退していく理由を正しく理解していないための誤答が多い。		13.8	
5	(1)	よくできている。	79.1	
	(2)	① 誤答では、アが多い。	34.9	
		②	a 誤答では、「6」「16」が目立つ。	27.6
			b 誤答では、「14時8分46秒」「14時8分30秒」などがみられる。	17.3
6	(1)	① 非常によくできている。	88.9	
		② Aからばねの上端の位置までの高さとばねの伸びの関係を正しく理解していないための誤答が多い。	22.9	
	(2)	① 誤答では、「㊦を2、㊧を0.5」などがみられる。	69.8	
		② 誤答では、イが多い。	36.9	
	(3)	①	a 誤答では、「0.4」が目立つ。	20.7
			b 浮力の大きさを正しく作図できていない誤答が多い。	20.7
	②	誤答では、エが多い。	27.3	

# 作 文

## 1 作文題名の選択状況

作文の題名	選択した 学校数	選択者数	受検者数に対する 選択者数の割合
一 私の親しい友人	6 校	27 人	11.7 %
二 私が好きな言葉	8 校	32 人	13.9 %
三 私がめざしていること	11 校	121 人	52.4 %
四 中学校時代をふりかえって	3 校	38 人	16.5 %
五 大人になるということ	3 校	10 人	4.3 %
その他（注）		3 人	1.3 %
計	実施した 学校数 13 校	受検者数 231 人	100 %

（注）指定外の題名で書いた者 3 人。

## 2 概 評

### (1) 内 容

- ・「私の親しい友人」では、特定の友人との交流を述べたものが多かった。その友人との交流から学んだことや、友情とはなにかということにまで考えを深めたものは少なかった。
- ・「私が好きな言葉」では、「ありがとう」などの感謝を伝える言葉、「努力」などの前向きな言葉をあげたものが多かった。好きな言葉の説明にとどまり、それを自己の成長と関連づけて述べたものは少なかった。
- ・「私がめざしていること」では、将来の職業について述べたものと、高校生活の目標をあげたものがみられた。新しい生活を前にした意欲的な姿勢を読み取れるものが多かったが、めざしているものを実現するための具体的な展望を述べたものは少なかった。
- ・「中学校時代をふりかえって」では、学校行事や学校生活を題材にして書いたものが多かった。事実を羅列したものが目立ったが、その経験から学んだことや、それを今後はどう生かしたいのかを述べたものもみられた。
- ・「大人になるということ」では、働くことの大変さや社会人としての責任など一般論にとどまるものが多かった。

### (2) 表現・表記

- ・ひらがなの多用や誤字、脱字の多いものがみられる。
- ・原稿用紙の使い方、句読点の打ち方など、文章を書く上で基本となる事項を習得していないものが目立つ。
- ・書き言葉と話し言葉との区別、主述の呼応などに不適切なものがみられる。
- ・文章の構成や段落分けの意識がなく、思いつくままに文を書き連ねているものがみられる。